

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 名古屋東急ホテル
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 池森 由幸
 幹事 足立 一郎
 広報・会報委員長 榎尾 富二

No. 27

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

Reach Within to Embrace Humanity

2011~2012年度 RI会長 カルヤン・バネルシー

今日の例会
 第1396回 平成24年2月7日(火)
 クラブフォーム I. M. 会合

先週の例会
 第1395回 平成24年1月31日(火)
 節分例会 於: 城山八幡宮 午後5時30分

◆奉仕の理想
 ◆出席報告
 会員 42 (37) 名 出席 25名
 出席率 67. 57%
 前々回 1/17 (修正出席率) 94. 44 %

◆ビジター数 62名

川端職業奉仕委員長挨拶



皆さまこんばんは
 昨年は大変な年になりましたが、今こそロータリー精神に返って何が出来るか、何をすべきなのかを考えてまいります。
 先ほど吉田宮司にご祈祷頂きましたので、良い日々が続きます事を願います。

池森会長挨拶

今日は、城山神社での節分豆まき例会です。
 会員の吉田玄宮司さんには毎年ご配慮下さいましてありがとうございます。後ほど、講話をお願いしてありますので、よろしくお願い申し上げます。
 さて、昨日の主要新聞各紙の夕刊に、日本人の人口推計についての最新情報が総務省から発表されたニュースをご覧になられたことと思います。
 50年後に日本人の人口が約8,600万人と、現在の約2/3にまで減少すると推計されるというショッキングな内容でした。これは、今から50年後の推計です。我々の多くがその結果を知ることはできないと思いますので、どうも切実感がわきにくいようです。ところが、実は、将来2/3に人口が減る下地が、着実に今も既に進んでいますし、進んで来たのです。
 私の家族が東区から千種区に引っ越して来ましたのは昭和39年でした。翌年から、毎年、新年の初詣に城山神社にお参りさせていただいています。あのころは、今にもまして境内に屋台が並び、お正月3日が日間を通して大変賑わったのを覚えています。まさに、押し合い圧し合いの混雑だったと思います。その賑わいが毎年少しずつ緩和されてきましたよね？ そこで質問です。今年成人になられる方の人口は、あの当時とどう変わったと思われますか？ 実は、成人になられる人口が最大に達し

節分祈禱・進饗式



たのが昭和 45 年でした。その時の新成人人口と今年の新成人人口は、何と、ちょうど半分にも減少してしまったのです。これは、今後の将来推計ではなく、過去に起こった事実です。このような社会現象が既に起こってしまっているのです。これに向き合って、今後も生活して行くには、今までの常識に基づいた対応だけでは対応しきれなくなっていることは自明の理です。また、仮に、今年から日本の出生率が世界的な平均値まで戻ったとしても、今起こっている人口減少の下向きカーブが解消されて、平ら（人口が増えも減りもしない状態）になるのに約 40 年かかるということも推計されています。ですから、どうぞ、皆様方におかれても、各々の事業体で新しい世界に対応できる準備をなされていらっしゃることはと思いますが、より一層、早めの対応に着手されることをお奨めしたいと思ひまして今日の卓話とさせていただきます。

◆講話 神の慮り

城山八幡宮 宮司 吉田玄君



お正月には本当に沢山の方に参拝を頂きます。寒い中、がやがやと賑やかに話しをしながら、1 時間以上も並ばれていますが、皆さん神前に着くと静かにお祈りをしていらっしゃいます。我々にとっては、そのお正月の光景は昨年 1 年間の通信簿のようなものだと毎年思います。

参拝者の数だけではないとは思いますが、手を抜いていればやはりそれなりの反応が現れます。

良く参拝においでになる方や、神具作りの職人さんなどは、境内に入った瞬間そういう空気を感じると言います。

さて、祈るということは本当に尊いものですが、祈りも様々です。

日本人は全体的に世俗的で開運・金運・合格など分かりやすい願い事が多いと言われますが、多分それは富国強兵・殖産興業を旗印に日本が産業革命に突入し、欲望を過度に刺激する資本主義の時代に入ってから、特にそのような傾向が強くなって来たのではないかと思います。勿論古代から近世までの歴史にも、戦勝祈願などの世俗的な願文は多く残されていますが、例えばお日様に手を合わせて感謝したりする純真な感謝の祈りは現在非常に少なくなっています。

祈りの中で最も尊く、最も質が高いものは「感謝」だと言われます。「謙虚・謙譲・慎み」という日本語もそれを表現しています。

我々は感謝の祈りを込めた瞬間既に神様の加護の中にいる、と言われます。

しかし私を含め多忙な日常を生活している我々は大抵その境地を忘れてしまっています。

神社はそれを思い出させる場所でありたいと思ひます。

そんな事を考えながらお正月の風景を見ていて、次のような詩を思い出しました。

という作家が「マザーテレサへの旅路」という本で紹介した「神の慮り」という詩です。

この詩は、作者不詳ですがある患者の詠んだものだとそうで、ニューヨーク大学病院のロビーに掲げられているとのことです。

『神の慮り』 作者不詳 翻訳 神渡良平

大きなことを成し遂げるために
力を与えてほしいと神に求めたのに
謙虚さを学ぶようにと
弱さを授かった

より偉大なことができるようにと
健康を求めたのに
より良きことができるようにと
病弱な体を与えられた

幸せになろうとして
富を求めたのに
賢明であるようにと
貧困を授かった

世の人々の称賛を得ようとして
権力を求めたのに
得意にならないようにと
失敗を授かった

求めたものは一つとして与えられなかったが
願いはすべて聞き届けられていた

言葉に表されていない祈りが叶えられていたのだ

ああ、私はあらゆる人の中で
もっとも豊かで祝福されていたのだ

原詩のタイトルは「A Creed For Those Who Have Suffered」で、直訳すれば「病人の信条」ですが、「苦難にある者たちの信条」「悩める人々への銘」「神の配慮」とも訳せます。

何の苦難もなく、何の不自由もなく、何の失敗もなく、何の不足もなければ、感謝する心も生まれません。本当の自分の姿も見えず、今という状態が如何に微妙なバランスのうえに成り立っているか、自分が如何に守られているかにも気づけないままです。世俗的な言葉を使えば「御利益は既に与えられている」と言えるでしょう。

世界中を探しても、100%不足のない人生がどこにも無いのもそういうことだろうと思います。

神を人の外側にある存在として捉えており、表現はキリスト教的ですが、内容は普遍的な言葉だと思います。ただ、違う次元から見ればもう一つ奥深い見方もあります。それはまた違う機会に。

時々「感謝」の二文字を思い出したいなと考えた非常に真面目な新年の私でありました。

◆ニコボックスは次回掲載させていただきます。